新潟地方気象台
Niigata Local Meteorological Office

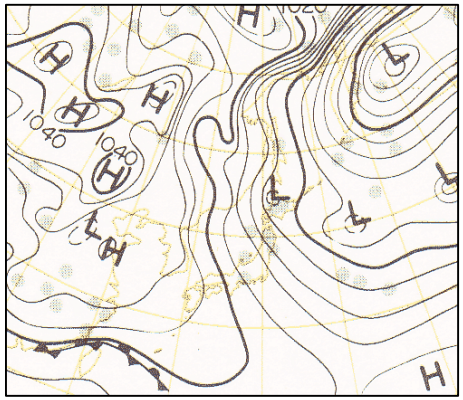
（昭和56年豪雪）昭和55（1980）年12月から昭和56（1981）年3月にかけての大雪

強い寒気と冬型の気圧配置により低温、大雪
～新潟県では雪崩による人的被害、交通障害が発生～

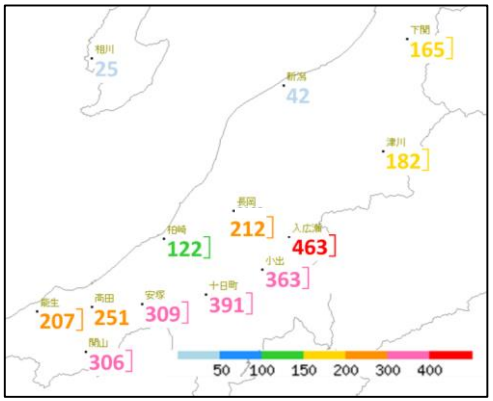
【概要】

昭和55（1980）年12月中旬から昭和56（1981）年3月にかけて、日本付近はたびたび強い冬型の気圧配置となり、全国的に低温の日が続き、日本海側を中心に記録的な大雪となった。この期間の大雪は、昭和56年豪雪と呼ばれることがある。新潟県では、特に昭和56年1月2日から8日にかけて、強い寒気が持続的に流れ込んだため、上越と中越の山沿いを中心に大雪となり、この期間は毎日40~90センチの雪が降り続いた。1月2日から8日にかけて、日積雪差の合計は魚沼市入広瀬で169センチ、妙高市関山で164センチとなり、最深積雪は魚沼市入広瀬で298センチ、十日町で253センチに達した。また、冬季を通しての最深積雪は魚沼市入広瀬で463センチ、十日町で391センチになるなど、記録的な大雪となった。

連日の大雪の影響で、国鉄（当時）は相当の日数で運休が発生し、道路も通行止めや片側交互通行など規制が行われ、全国的に大規模な交通障害が発生した。また、雪崩や家屋の破損が相次ぎ、新潟県では1月7日未明に北魚沼郡守門村大字大倉の雪崩で8名、1月18日未明に同郡湯之谷村下折立地区の雪崩で5名の死者を出した。新潟県は死者43名、重傷者88名、軽傷者91名で、昭和56年豪雪の全国の死者133名のうち最も多い死者を出した。　（被害状況：新潟県災害時気象速報、国立防災科学技術センター災害現地調査報告などより）

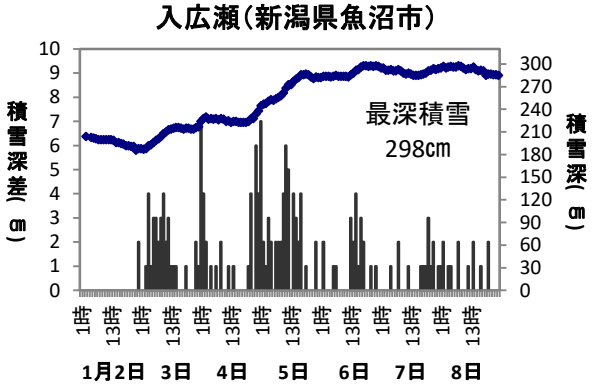


地上天気図　昭和56年1月7日9時



昭和55年12月から昭和56年3月の最深積雪

]：資料不足値（統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けている）



魚沼市入広瀬の積雪の深さの推移（1月2日から8日）